

平成28年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	32人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成28年6月8日(水) 13:30 ~ 15:00				
主 テ ー マ	<p>1 前年度のまとめと今年度の方針について ワーキンググループの活動報告と今後の動きについて</p> <p>2 部会員からの情報提供や近況報告について</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1、について。部会長より、説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料に沿って昨年度の活動報告と今年度の活動計画の説明があった。 要望書(案)についての説明があった。 要望書の提出に向けて今年度もWGを中心に活動していき、部会の中でも報告、検討していきたい。 地域包括ケアシステムに障がい者も含まれていることの周知を部会で図っていきたい。 市町村の方にも是非呼び掛けをお願いしたい。 老人保健施設での伊那養護学校つくしグループからの実習について、伊那養護学校大畑先生より報告があった。6月に実習の予定をしているがまだ動きはない状況である。 <p>2、について。部会員からの意見交換が行われ、主な内容となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 難病の方の急なショートステイ先の手配ということがあり、資源のなさに困った。(相談支援専門員) 城西病院を利用している。上伊那の事業所4か所の見学に行った。(保護者) 養護学校卒業生の親から、卒業後が大変と聞いた。小児→成人→中高年等のつながりが大事と感じた(保護者) 今年度は重心の方の利用はないが昨年度までは関わっていた。重心の方は、24時間介助が必要で大変と感じている。(事業所) 訪問看護も上手に利用し、サービスの利点をお伝えしながら相談支援計画を立てています(相談支援専門員) 今年度から重心の方の利用がある。家族の協力もあり助かっている。(事業所) 空床型のショートステイのため、緊急時の受け入れが困難。最近は日帰りの利用の方も多。病院のため、殺風景なため検討したり、保育士が入ったりしている。(上伊那生協病院) 地域ケアシステムは、地域包括支援センターで若年認知症の方が話題となり、障がい福祉課とも連携していく方向性となっている(飯島町) 					
ま と め	前年度のまとめと今年度の方針、ワーキンググループの活動経過報告を行い、意見交換を行った。					
次 回	第2回重心部会伊那養護学校つくしグループの懇談会への参加 H28年7月1日(金)10:30~11:30					

平成28年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	57人	会場	長野県伊那養護学校 会議室
	日時	平成28年7月1日(金) 10:30 ~ 11:30				
主テーマ	<p>今回の部会は平成28年度伊那養護学校つくし進路福祉懇談会に重心部会が出向く形で開催されました</p> <p>1,重心・要医療的ケア部会から。</p> <p>2,保護者からの要望等について</p>					
主な意見など	<p>1、について。</p> <p>部会長から昨年度の活動報告と今年度の活動計画、要望書の説明を別紙資料により説明があった。</p> <p>2、について。保護者からの要望や、病院からの意見をいただき意見交換をした。</p> <p>○保護者からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理想は学校での環境。夜間に酸素吸入必要で、先生のいる所がいい。 生活リズムがとりにくいので昼夜関係なく快適に過ごせる所が希望。遠くの事業所は送迎があるといい。 ・訪問入浴の回数をもう少し増やしてもらいたい。 ・おむつ給付金について。体が大きくなるとおむつも2枚重ねにしたりと値段も高くなり、足りない。 ・卒業後の問題。高齢者の施設で実習したい。昨年から言っているが進んでいない様子。デイのように1日利用しリハビリもしてもらえることが理想。病院は日中ベッドの上で過ごさなければいけないことがネック。 来年4月から通える所を見つけない。 <p>○事業所からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所では夜間看護師がいないために受け入れができないと言われる。事業所としても受け入れたい気持ちがあり、ほかの事業所から看護師派遣をお願いできないか？ ・生活介護より放課後等デイサービスの方が単価がいい。市町村で加算等をつけてもらえれば事業所も広がるのではないかと。 <p>○病院からの発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(伊那中央病院) こども病院からの退院のケースの相談はある。伊那中央病院を2~3日利用しこども病院に戻るといったケースもある。入院扱いで対応しておりショートステイは現在受け入れていない。 ・(辰野病院) 病院側だけで話していても広がらない。今日のように実際に話を聞いたり見たり現実を知り、そこから始まっていくものだと思った。保護者の方が理想でしかない希望として話されたが、理想を聞くことで広がっていくと思う。 昨年度の子どもの受け入れについては、職員の協力もあり行うことができた。 ・(生協病院) 看護師の研修を県立こども病院で行っている。 ショートステイの過ごし方は、保育士やリハビリ職員が入ったり、ナースステーションやフロアにて過ごしている。 要望としては、送迎の希望が出ている。 空床型のショートステイのため自由ではない。 最近のショートステイ利用はお泊まりより日帰り利用の方が多。日中場所の不足を感じる。 訪問看護での訪問リハビリも活用して欲しい。 ・(部会長)話を聞いて部会長から、伊那中央病院での重心児者のショートステイの受け入れについて、今後部会でも要望書を通しお願いをしていく動きがあると説明がある。 <p>○保護者から災害時に心配なことが話された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地で災害があり、福祉避難所でどこまで対応できるのか気になる。体温調節が難しいので、災害時にすぐに温められるかが心配。 ・自宅が火事になり、普段から準備はしていたが、とっさのことに何も持ち出せなかった。医療機器を持ち出せなかった。幸いすぐに対応できたのでよかったが、災害時の対応について考えさせられた。 ・災害時に自宅で過ごさざるを得ないという選択肢もある。その時に情報は入ってくるのかが心配。 →伊那市より。市町村ごと災害対策本部を立ち上げ対応することになっていると話があった。 					
まとめ	<p>保護者からの意見や要望を当事者の生の声で聞かせてもらい、課題を改めて考えることができた。</p>					
次回						

平成28年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	32人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成28年12月15日(水) 13:30 ~ 15:00				
主 テ ー マ	<p>1ワーキンググループの活動報告について 2老人保健施設での受け入れ動向について 3災害時の対応について 4難病について</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1について…上伊那の基幹総合病院を訪問し、上伊那地域に在住する重症心身障害児者及び医療的ケアが必要な重症心身障害児者と、その家族からのニーズについて説明をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊那中央病院訪問(11月11日) 急性期患者の受け入れを中心とする病院であるため、重症心身障害児者の受け入れは難しい。 長野県立こども病院からの紹介による入院治療の受け入れの実績はあるため、スタッフが今後も受け入れを重ねていくことが大切と感じているとの回答を病院側からいただいた。 辰野病院訪問(11月25日) 成人の方については、日中の受け入れと一泊の受け入れをしている。小児科医は常勤の医師がいないため、受け入れができない現状があるとの回答があった。 昭和伊南病院訪問(12月6日) 小児科の医師が現在実質的に一名のみの体制であり、重症心身障害児を受け入れる体制が十分に整っていない。また、専門にベッドを確保しておくことも難しい。 <p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> はびろの里にて、伊那養護学校高等部生徒が11月に初めて体験実習を行った。食事介助を受けた。今後も12月に1回程度の頻度で実習を続けていきたい。 エーデル駒ヶ根では、障害児者の受け入れのための手続きが進んでおらず、まだ受け入れができないとのこと。 <p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊那市の取り組みについて 事前準備としては、①要援護者台帳の作成とデータ管理、②保健福祉支援カードの記入を依頼し、民生委員が把握する、③地域支え合いマップの作成、④福祉避難所の解説の協定締結を行う。 災害時の対応としては、①障害者の避難対象者のリストアップ、②地区の避難所の開設、安否確認、③福祉避難所の開設を行う。 飯島町の取り組みについて 町役場の近くに平成29年度に診療所を開設予定。災害時の拠点とする。 宮田村の取り組みについて 災害時の支援について、4つの医療機関と協定を結んでいる。要援護者台帳を作成している。また、支え合いマップを地区ごとに作成する予定。 辰野町、箕輪町、南箕輪村、駒ヶ根市、中川村については、今後検討予定。 <p>4について 参加者から寄せられた意見等は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険施設の利用は、疾病によって利用できる施設と、利用できない施設がある。 障害のサービスでショートステイで受け入れをしていたが、途中から呼吸器をつけるようになった等で医療保険の受け入れに切り替わった例もある。受け入れにあたっては、医療機関同士の連携が重要になる。 地方事務所ごとに難病支援のネットワークがある。 辰野病院では、一般病棟でレスパイト入院を受け入れている。 伊那中央病院では、小児特定慢性疾患の患者さんの受け入れをしている。院内でも、難病の方の受け入れに関して知識の蓄積が必要と感じている。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 生協病院より…障害のある方のリハビリにも取り組んでいきたい。まずは伊那養護学校つくしグループに、病院に対するニーズを聞き取ることから始めたい。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ワーキンググループでの活動報告を含め、各機関での取り組みを共有し、情報交換を行った。 難病の方への支援について、活発に意見交換が行われた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年2月頃を予定しています。 					

平成28年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第4回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	20人	会場	福祉まちづくりセンター 大会議室
	日時	平成29年2月10日(金) 13:30 ~ 15:00				
主 テ ー マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 難病について事例紹介 2 病院への報告をもとにした懇談会の今後の対象病院の拡大について 3 老人保健施設への報告書提出について 4 災害時の対応について 5 県のワーキンググループの報告 					
主 な 意 見 な ど	<p>1、について。 スカイプにより当事者出演を行った。自身の病状、日常生活の様子や、これからの目標や希望を話された。</p> <p>2、について。 経過としては、H28,11,11伊那中央病院、H28,11,17辰野町立病院、H28,12,6昭和伊南病院への訪問をし、重心・要医療的ケア部会の経過報告、圏域の状況をお伝えしてきた。 今後は、上伊那医師会、仁愛病院(伊那市)、田中病院(伊那市)、前澤病院(駒ヶ根市)、花の道クリニック(駒ヶ根市)、土屋医院(辰野町)、上伊那生協病院(箕輪町)、斉藤診療所(宮田村)などへの、訪問も考えていくことになった。</p> <p>3、について。 伊那養護学校つくしグループ大畑先生より、生徒(高3)の老人保健施設はびろの里への体験実習の報告があった。感想は、環境的にもとても良い。食事もあるに合わせてくれ良かった。今後は入浴も可能とのこと、家族から入浴の希望も出ている。実習後のはびろの里と学校との反省会の中で、はびろの里から医療型短期入所の県への申請をしたいと報告があった。</p> <p>4、について。 アンケートをとるなどして、当事者の意見を聞きたいと思っている。(部会長) 部会員からの意見。 ・アンケートを取るのであれば、その中に「地域の中に本人の存在をアピールしてもいいのか?」の項目を入れてほしい。(医療関係者) ・先日大雨による避難準備情報(障がい者、高齢者のみの避難)が出たが困った。避難所に行っても障害の程度を周りの人は知らないで難しい。個室があればいいと思う。(当事者家族) ・避難所は医療的ケアがあると難しい。近所の病院に駆け付けられる体制があると安心する。(当事者家族) ・地域の災害マップもできており、助けてくれる人もわかっている。(当事者家族) ・災害時に地域で助けてくれる人は誰か知らない。我が家は、高齢者と障がい者で暮らしているから、2人を連れて家を出ることはできない。家にいるしか選択肢はない状況。また組に入っていない家庭も多くなってきたので把握しにくい現実もあるように思う。(当事者家族) ・南箕輪村では、組に入っていない人の対策として、防災班を作ろうとした。災害時は手を取り合おうという考えで自治防災。1軒1軒呼びかけた経過がある。(きらりあ片桐) ・8年前に、民生委員の協力をお願いしアンケート調査を行った。保健福祉台帳や災害時要支援マップに反映されている。(伊那市) ・避難所の対応も考えなければいけない。今回話を聞いて考えるきっかけになった。医療的ケアの必要な方の対応も考え始めている。(辰野町) ・上伊那の地域生活拠点整備されれば、災害時も困らないのではないかと。(当事者家族) →これを受け、きらりあから現在の地域拠点整備の取り組みについて報告した。</p> <p>5、について 療育コーディネーター丸山から報告があった。</p>					
ま と め	<p>今年度の部会のまとめを行い意見交換をした。 また難病については当事者から話をお聞きし理解を深めた。</p>					
次 回	<p>・今年度は4回の部会を開催してきました。大勢の皆さんのご参加、ありがとうございました。 ・来年度も引き続き積極的なご参加をよろしくお祈りします。</p>					

に

か月

、

、

難所

ハップ

で

に